

治療薬の専門知識習熟を

リウマチ対策 薬剤師の役割明記

国のリウマチ対策に薬剤師の役割が盛り込まれた。厚生労働省の審議会がまとめた報告書では、リウマチ専門医が不足している現状から、治療薬の作用機序や副作用に習熟して患者に十分な対応を行うよう促しているほか、薬効が鋭い生物学的製剤の適正使用を推進する方向性も打ち出されており、薬剤師に求められる専門性をリウマチ治療で発揮できるかどうか試される。

新たな関節リウマチ対策と全体目標を盛り込んだ国の報告書では、リウマチ患者の疾患活動性を適切な治療でコントロールし、長期的な生活の質を最大限まで改善して継続的に社会生活に参加することを全体目標に設定した。これら目標を達成するため、専門的なメディカルスタッフを育成する必要性を明記している。

患者は主治医に病状や経過、薬の説明などを求めているものの、リウマチ専門医の偏在と不足により、十分な対応が困難であると現状を指摘。この状況を改善するため、リウマチの専門知識・技能を持つ医師以外のスタッフによる患者ケアが重要であるとし、薬剤師には高度化しているリウマチ治療薬とその作用機序、副作用を習熟することを求めた。

診療の標準化・均てん化を進めることも必要とし、抗リウマチ薬のメトトレキサートや生物学的製剤の適切な使用方法の普及、減薬・休薬・中止に関する検討が不十分とし、国が関係学会と連携して生物学的製剤の適正使用を推進すると共に、減薬などを検討すべきとしている。

患者に対して適切な治療、薬剤、医療機関などに関する情報提供の充実も欠かせないとし、国には自治体や関係学会などと連携して、これら情報を医療者や患者・家族に提供することを求めている。

さらに、研究開発の推進については、標的分子の制御による治療手段や早期治療から始まる治療戦略は大きく進歩したものの、発症のメカニズムや、骨破壊、軟骨破壊などを引き起こす分子機序や自己免疫学的な機序の解明も不十分と指摘。国が関連学会と連携して関節破壊の阻止や免疫学的な機序解明の研究を進め、治癒や予防研究を推進する必要があるとした。

MR総数が4年連続減少 薬剤師MRは過去最低数に

MR数が4年連続で減少していることがMR認定センターがまとめた2018年版MR白書で明らかになった。今年3月末段階のMR総数が前年比752人減の6万2433人となり、14年度以降4年連続で500人以上の減少と厳しい環境が続く。MRの新卒採用をしなかった製薬企業が増え、薬剤師資格を保有するMR数も大幅に減少し、調査開始以来過去最低数となった。新薬開発のトレンドがバイオ医薬品にシフトし、相次ぐ不祥事に国が販売促進活動のガイドラインを出す時代。そうした中、これまで人海戦術で行ってきた医薬品営業のあり方が大きく変わろうとしているのは確かだ。

調査は、同センターに登録している製薬企業194社とMR業務委託・派遣企業(CSO)15社、卸1社の210社から回答を得たもの。MR数は14年度1095人減、15年度522人減、16年度950人減と年々減少し、この4年で3000人強が減った計算になる。男性MRは1000人減の5万3185人となった一方、女性は248人増の9248人となった。前回調査で女性MRは減少したものの、今回増加に転じて過去最高となった。

管理職でも、男性が625人減の8140人となった一方、女性がこれまでで最も多い87人増の255人となり、全体で566人少ない8395人だった。

企業別で見ると、内資製薬企業では0.3%減の3万6721人とわずかな減少にとどまったが、外資製薬企業は1.1%減の2万1973人、CSOは9.5%減の3667人となった。卸は2人増の72人となった。加盟団体別ではジェネリック製薬協会が57人減の3591人と、後発品が浸透する中でもMR数は減少している。

薬剤師MRは、前年比621人減の5825人と大幅な減少となった。薬剤師資格を保有する男性MRは722人減の4780人となった一方、女性MRは101人増の1045人となった。MR総数に占める薬剤師MRの比率は9.3%と前年から0.9ポイント低下し、10%を割り込んだ。

一方、MRの新卒採用を行ったのは92社と前年に比べて5社減少した。中途採用を行った企業、定年退職者のMR再雇用で「再雇用した」「定年を延長した」と回答したのは共に129社と、前年から2社減少した。

これまで薬の効果について様々な角度から考察してきました。今回は、効果は効果でもプラセボ効果のお話です。プラセボとは有効成分を含まない偽薬のこと。理論上は何の治療効果も期待できないものですが、実際には治療上、有益な効果が得られることがあり、これをプラセボ効果と呼びます。

それほど大きな効果ではない、あるいは単に偶然の産物なんじゃないの?と思われる方も多いでしょう。ところがエビデンスを紐解いていくと、軽視できないプラセボ効果の存在が垣間見えてくるのです。

例えば、咳が出ている2~47カ月の乳幼児を対象としたランダム化比較試験(PMID: 25347696)では、治療をしなかった群と比べてプラセボを投与した群で、咳の頻度や重症度が統計学的にも有



医療法人徳仁会中野病院薬局 青島周一

これから「薬」の話をしよう

侮れないプラセボ効果

意に減少しました。

慢性的な腰痛を感じている人を対象としたランダム化比較試験(PMID: 27755279)では、通常ケアのみを行った群に比べて、通常ケアに加えてプラセボを服用した群で、3週間後の痛みが統計学的にも有意に減少しました。この研究で興味深いのは、自分が飲んだ薬がプラセボだと知らされた上で服用している点です。それでもプラセボ効果が発現し得ることが示唆されているのです。

プラセボ効果は外科的な手術でも起こり得ます。狭心症患者を対象に、冠動脈の狭窄を広げる手術をする群と、ニセの手術(プラセボ手術)をする群を比較したランダム化比較試験(PMID:

29103656)では、6週間後の運動能力に有意な差を認めませんでした。つまり、術後の症状改善の多くは、プラセボ効果による可能性があるということです。

これまで「効果」という言葉を当たり前のように使ってきましたが、薬そのものの厳密な効果を「効能(Efficacy)」と呼びます。しかし、実際には自然治癒や、服薬という行為に付随する様々な健康関連行動が複合的に影響して臨床的な「効果(Effectiveness)」を生み出しています。Effectivenessに占めるプラセボ効果の影響は、僕らが想像しているよりも遥かに大きい可能性が示されているのです。

『薬剤師としての将来を考える』そのためのヒントが詰まっています!

大学のキャリア教育にも使える

薬学生・薬剤師のための

キャリアデザインブック ver.2

薬剤師のキャリア支援会代表であり、大学や企業でキャリア教育の講師も務める著者が、これから社会に出る学生や、壁を感じている社会人などに向け、薬剤師としてのキャリアデザインの考え方を様々なデータや図表を交えてまとめた一冊。

- ポイント ◆キャリアデザインの必要性や考え方を基本から学べる ◆自分自身の考えを書き込みながら整理・分析することができるワークシートを多数掲載 ◆薬剤師の具体的なキャリア実例を紹介

西鶴 智香 著 B5判 122頁 定価1,800円+税



薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<http://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。